

※これは日本建築仕上学会機関誌『FINEX』2015May/Junに連載したものに加筆修正したものです

◆コンクリート+α 近代遺産の旅◆

～軍艦島から琵琶湖疏水へ～

文・写真 山口 実(建物診断設計事業協同組合理事長)

第2回佐賀県・福岡県

最も優秀な藩校と言われた「弘道館」跡に建てられた鍋島藩のシンボル：（佐賀）徵古館



写真右：徵古館

登録有形文化財

構造:RC

竣工:1927年

所在地:佐賀市松原2-5

-22



「明治維新の主役は薩長土肥」と学校で習いました。ところが、薩長土が幕末に血みどろな戦いをしていたことに比べると、佐賀藩(備前)は戊辰戦争に突然登場します。その理由は、官軍側が佐賀藩の化学技術、兵器、そして人材を必要としたからでしょう。事実、上野戦争において決定的な役目を担ったアームストロング砲は佐賀藩のものでした。人材も、大隈重信、副島種臣、江藤新平、佐野常民、島義勇など豊富です。それは、当時としては異例の実学的最新技術の吸收を藩士に求めた第十代佐賀藩主鍋島直正(閑叟)の強力なリーダーシップによるものでした。現在、徵古館はその鍋島家に関する資料や美術工芸品を展示する博物館として、広く県民に親しまれています。ギリシャ風の列柱が印象的な建物です。

**写真左：旧唐津銀行本店**

登録有形文化財

構造：煉瓦造 地上2階地下1階塔屋

竣工：1912年

設計：田中実（辰野金吾監修）

取材地：唐津市本町1513-15

**写真右：武雄温泉桜門**

重要文化財

構造：木造

竣工：1915年

設計：辰野・葛西建築事務所

所在地：武雄市武雄町大字武雄7425

辰野金吾の関連建築物：武雄温泉桜門他

佐賀県は、曾禰達蔵、辰野金吾、村野藤吾など多くの建築家も輩出しています。このピック3は、佐賀市ではなく唐津市の出身というのが興味深いですが、ここでは、辰野金吾に注目してみましょう。

旧唐津銀行は、辰野にとって故郷に錦といったところでしょうが、設計は辰野の弟子の田中実（清水組）で、辰野は監修ということです。それにしても、外壁の赤と白のコントラスト、屋根の小塔、イオニア式の柱など「辰野式」の模範のような建物です。面白いのは、外壁が赤レンガではなく、タイルだということです。東京駅の一部もタイルですが、建築は、常に時代の変化の中にいるということでしょう。

武雄温泉桜門及び新館は、竜宮城（残念ながら行ったことはないですが）のような木造の建物で、「辰野式」にはほど遠いですが、赤と白のコントラストは健在です。着工が大正3（1914）年ですから、辰野は東京駅とほぼ同時期に仕事を行っていたことになります。そこに、物語が生まれました。それは、東京駅丸の内南北ドーム天井に復元された干支のうち、そこにはない4つの干支が武雄温泉桜門の2階で発見されたからです。東京駅はご承知の通り2012年10月に大復原工事が完成しましたが、武雄温泉も重要文化財として2013年に改修工事を行いました。その時に4つの干支が見つかったと一部の新聞で報じられました（佐賀新聞2013-04-18等）。それは、「子」「卯」「午」「酉」ですから北東南西にあたります。ですから、東京駅には残りの8つの干支が飾られている訳ですが、例えば、丑寅が北東を指し、丑は東北（45°C）でもなく北北東（22.5度）でもなく、北北東微東（30°C）という言い方になるそうです。ご存知ですか。



写真上：武雄温泉新館
構造等は桜門と同様



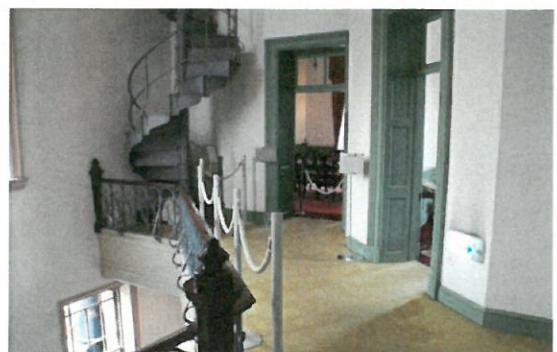
写真上：東京駅丸の内北口天井

福岡を代表する辰野作品： 旧日本生命九州支店

福岡には、ランドマークとなる建築物が多くあります。アクロス福岡、キャナルシティ博多、福岡ドーム、福岡タワー等々どれも個性的で魅力的ですが、その中でも旧日本生命九州支社はひときわ存在感があります。天神から中洲という九州一の繁華街にわたる橋のたもとにあり視界が開けることもあります。煉瓦造りの建築物は建築に興味がない人の目にもとまります。よく見ると、ドームを乗せた角の部分は東京駅と同じ8角形です。装飾が多いのに、内部も外部も落ちついてみえます。



写真上・右：日本生命九州支社（福岡市赤煉瓦文化館）
重要文化財
構造：煉瓦造 竣工：1909年
設計：辰野片岡建築事務所
所在地：福岡市天神1-15-30



小ぶりだが辰野ルネッサンスの模範のような：旧百三十銀行八幡支店(北九州市旧百三十銀行ギャラリー)

小倉から博多へ在来線で移動していたとき、一瞬ですが煉瓦造のような建築物が見えました。結婚式場のようにそれらしく造った建築物かもしれない、期待半分で次の八幡駅で降りて見に行って、驚きました。本でみたことのある旧百三十銀行八幡支店でした。確かに結婚式場にしては小ぶりですが、典型的な辰野式を目の前に見ることができます。なお、ギャラリーとして一般に公開されています。



写真上：旧百三十銀行八幡支店(北九州市旧百三十銀行ギャラリー)

構造：RC

竣工：1915年

設計：辰野金吾・片岡安

所在地：八幡市八幡東区西本町1-20-2



ナニコレ？ こんな見たことない！：志免(しめ)鉱業所豎坑櫓

とにかく、初めてこれを見た人は「ナニコレ！」と思わない人はいないでしょう。これは地下炭鉱の排出施設であり、作業員を昇降させる施設です。軍艦島の兄弟のような存在ですね。元々は海軍採炭所で、垂直の豎坑は430m、最深部は600m、戦争中の1943年に完成しました。この形は特に「ワインディングタワー」と呼ばれており、世界に3か所しかないそうです。内部に入ると、階段などのかぶりが少ない箇所の爆裂はところどころありますが、軍艦島の劣化具合に比べると大変良好な状態に見えました。2009年に重要文化財に指定されました。

写真前頁及び右:志免鉱業所

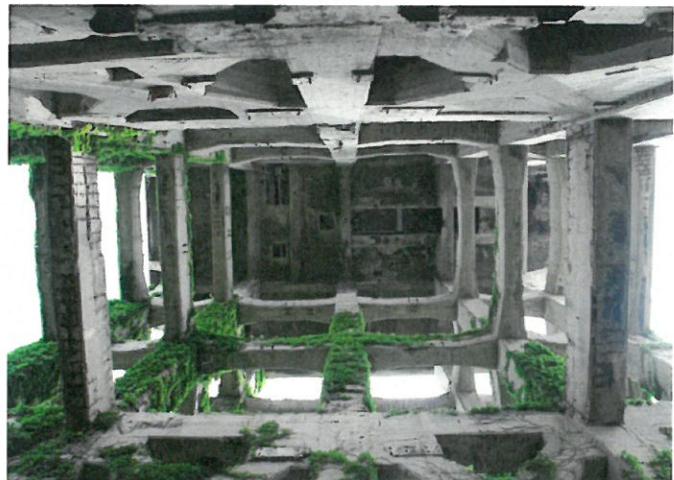
重要文化財

経済産業省「近代化産業遺産」

構造:RC 高さ47.65m 長辺15m 短辺12.1m

竣工:1943年

所在地:志免町志免495-3



移転問題に注目！どうなる近代建築物群:九州大学箱崎キャンパスと病院地区

古くは江戸時代の藩校までさかのぼる歴史のある九州大学は、1911（明治44）年に東京、京都、東北に次ぐ帝国大学として設立されました。ところが、1923（大正12）年から1925（14）年にかけて医学部や工学部などで不審火が続き、関東大震災の影響もあって、以後の建物の多くは鉄筋コンクリートで造られるようになりました。全体的に堂々としているなーという印象です。その多くは、大学の設計課長である倉田謙の設計ですが、それぞれが大変個性的です。

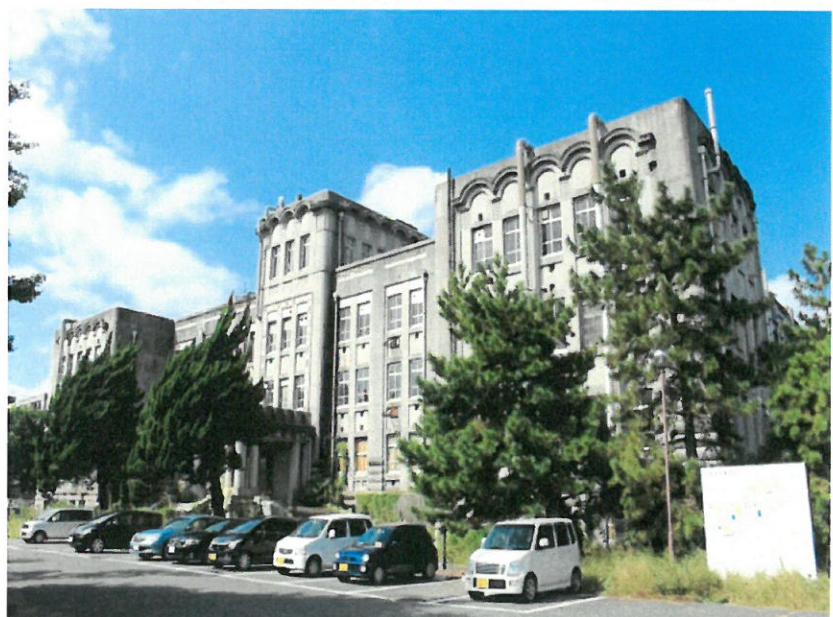
まず、箱崎キャンパスを1911（明治44）年竣工の正門（煉瓦造）から入ると、法医学部本館が迎えます。当時の学校建築で時々見られる半円形の庇、角のアール、細部の曲線が美しいです。



写真上:正門

構造:煉瓦造 竣工:1911年

取材地:福岡市箱崎6-10-1(以下同様)



写真右:法文学部本館(旧応用力学研所)

構造:SRC

竣工:1925年

設計:倉田謙

その裏にあり正門と反対の方向を向いている法文学部附属図書館は、小さな建物ですが、ご覧のようにヴォールト屋根が印象的です。

写真右：法文学部附属図書館

構造：RC 竣工：1925年

設計：倉田謙



写真下：工学部本館

構造：SRC

竣工：1930年

設計：倉田謙



広い構内でひときわ存在感のあるのが工学部本館です。キャンパス最大の建物で、その堂々たる姿には圧倒されます。全体的に直線的でありながら曲線的デザインを含み、スクラッチタイル、雨樋のライオンの飾り、玄関庇のコンドルの彫刻など、装飾的であり勇壮でありながら全体的にはむしろすっきりとまとまっているイメージがあります。

工学部本館と向かい合っているのが、もう一つのハイライトである事務局本館（工学部仮実験室研究室）です。どちらも倉田の設計ですが、こちらは煉瓦造らしい煉瓦造の建物です。すぐ横にある事務局第三庁舎（仮実験室研究室）も同じようなデザインですから、ここだけの独特な空間を演出しています。



写真左：事務局本館（工学部仮実験室研究室）

構造：煉瓦造

竣工：1925年

設計：倉田謙

**写真上:事務局第三庁舎(仮実験室研究室)**

構造:煉瓦造
竣工:1925年
設計:倉田謙

**写真上:医学部総合研究棟**

構造:RC
竣工:1931年
設計:倉田謙・岩崎圓吾

箱崎キャンパスから病院が中心となっている馬(まい)出(だし)キャンパスに移ると、近年改修された医学部総合研究棟（医学部合同内科教室及び病室）に圧倒されます。ご覧のように、全体的に直線を強調しているように見えます。また、細部もスクラッチタイルは縦張りされ、三連の窓も立ての線が特徴的です。とにかく、旧帝国大学の威厳すら感じられる建物です。

ところで、九州大学の移転問題というのが気になります。詳しいことは分かりませんが、これらの建築物群はどうなるのだろうか、という不安があります。しかも、一部の建築物の劣化状況をみると、その不安が増していきます。もし解体されるとすると、純粹にもったいないなーと思うわけです。

国道沿いの巨大鳥居:筥崎(はこざき) 宮大鳥居

筥崎宮は、923年に現在の地に遷座されたもので、日本三大八幡宮のひとつです。その一の鳥居は黒田長政が1609年に建立したもので、貫と笠木の長さが同じであり、先端が反りあがっているのが特徴です。筥崎鳥居とよばれるその形を、この巨大鳥居では大きくして再現しています。国道3号線沿いにあるので、とにかく目立つ存在です。

**写真上:筥崎宮大鳥居**

構造:RC 高さ15m
竣工:1930年
所在地:福岡市東区箱崎1-22-1

福岡市民の憩いの場:大濠公園橋梁群

福岡市民の憩いの場である大濠公園は、元々は福岡城の堀の一部で、博多湾の入り江でした。それを昭和初期に公園化しました。地下鉄を降りて入口から公園に入り池に近づくと、パッと視界が開放されます。都心にも関わらず池の廻りには高い建物がなく、のどかな空間がそこにはあります。その池の中央にはいくつかの島があり、その島を「観月橋」「松月橋」「茶村橋」「さつき橋」の4つのコンクリート橋がつないでおり、池の真ん中を渡れるようになっています。これほど大きな池の真ん中を、これほど立派な橋を歩いて渡れるというのは、他にはあまりないのではないでしょうか。

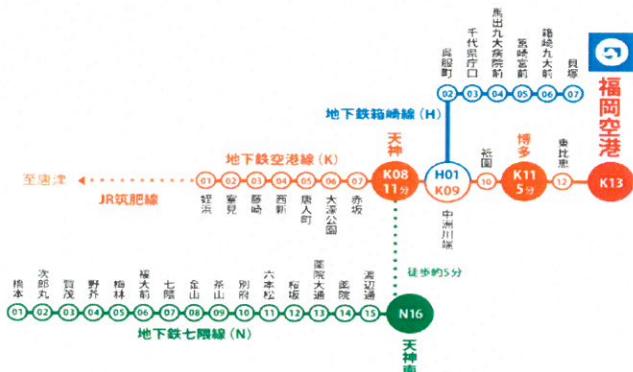


写真:大濠公園橋梁群

構造:RC

竣工:公園は1930年・「観月橋」等は1927年

設計:公園の基本設計は日比谷公園を設計した本田青六・実施設計は福岡県

所在地:福岡市中央区大濠公園

近代建築の宝庫北九州を代表する門司港付近：「レトロ地区」の建築物群

北九州は、製鉄、炭鉱、そして大陸貿易で日本の発展に大きく貢献した地であり、活発な経済活動が多くの独創的な建築を生んだ近代建築宝庫の街です。特に、門司港は明治以来日本の四大貿易港として栄え、次々に立派な建築物が建てられました。しかし、時代の変化とともに1970年代半ばころから、地域全体が衰退していきました。それが1998年、現役鉄道駅としては全国で初めて門司港駅が重要文化財に指定されたことが一つの契機になり、この地区の再生プロジェクトが始動し、歴史的価値を重要視したアーバンデザインによる「門司港レトロ地区」が1995年にオープンしました。この地域が注目されるのは、観光客が確実に増えていることです。それは、港の埋め立てをやめた知恵や努力、建築物を再生したことなどまらず、次々とその空間を生かしたイベントを行ってきてこの地区的魅力を引き出し続けたからでしょう。なお、門司港駅は、現在、平成30年まで大規模保存修理工事中です。



写真左：門司港駅

重要文化財

構造：木造

竣工：1914年

所在地：北九州市市門司区西海岸1-5-31



写真上：1922年にインシュタイン夫妻が宿泊した部屋

写真下：旧門司三井俱楽部

重要文化財 近代化産業遺産

構造：木造

竣工：1914年

設計：松田昌平

所在地：北九州市市門司区西海岸1-5-31





写真上：旧九州鉄道本社（九州鉄道記念館）

登録有形文化財　近代化産業遺産
構造：煉瓦造
竣工：1891年
所在地：北九州市市門司区清滝2-3-29



写真上：旧大阪商船

登録有形文化財　近代化産業遺産
構造：木造（一部煉瓦型枠コンクリート造）
竣工：1917年
設計：河合幾次
所在地：北九州市市門司区港町7-18

北九州に現存する建築当時とほぼ同じ用途の現役RC建築群 ①：旧横浜正金銀行門司支店他

北九州は近代建築が多く残されていますが、建築当時とほぼ同じ用途の現役鉄筋コンクリートが、ごく当たり前に街中に存在していることが嬉しいですね。

旧横浜正金銀行は外国為替専門の銀行でしたが、このことは門司が日本の国際貿易にとって重要な場所であったことの証でしょう。建物の隅角部を正面とするのは、前回ご紹介した長崎銀行もそうですが、当時の銀行建築の王道のようです。近くで見ると装飾を含めて丁寧な仕上げが印象的です。写真でご覧のように、銀行として現役です。



写真上：旧横浜正金銀行門司支店（北九州銀行門司支店）

構造：RC
竣工：1934年
設計：桜井小太郎
所在地：北九州市市門司区清滝2-3-4

北九州に現存する建築当時とほぼ同じ用途の現役RC建築群②：旧門司市役所

旧門司市役所を初めてみたとき、どこかで見たことがあるなーと思い後で調べてみると、設計が九州大学の多くを設計した倉田謙でした。特に、先にご紹介した工学部に似ています。工学部はスクラッチタイルが印象的ですが、旧門司市役所も現在とは違い、建築当時はスクラッチタイルが貼られていたとのことです。門司市役所が合併で門司区役所になっただけですから、まったく用途は変わっていないことになります。



写真上：旧門司市役所（門司区役所）

構造：RC

竣工：1930年

設計：倉田謙

所在地：北九州市市門司区清瀧1-1

北九州に現存する建築当時とほぼ同じ用途の現役RC建築群③：



旧日本郵船門司支店は、空調、給湯、エレベーター等が建設時から備わっていたオフィスビルです。非常にスッキリした外観ですね。現在も現役のテナントビルです。

写真左：旧日本郵船門司支店（門司郵政ビル）

構造：RC

竣工：1927年

設計：八島知

所在地：北九州市市門司区港町7-8

北九州に現存する建築当時とほぼ同じ用途の現役RC建築群④： 旧共同漁業ビル(写真前頁)

旧共同漁業(後の日本水産)ビルも関連会社の本社が使用している現役のオフィスビルです。この地は、日本水産創業の地であり、遠洋漁業の根拠地となった地です。屋上に、民間としては初めての漁業無線のアンテナが見えます。隅角に大きな玄関を配置し、左右対象と縦の線が強調されているファサードが印象的です。すぐ目の前が港であり、その玄関が海に向いていることが、この建物の存在そのものを表しているようです。



写真上：旧共同漁業ビル(ニッスイ戸畠ビル)

構造：RC

竣工：1936年

所在地：北九州市市戸畠区銀座 2-6-27

北九州に現存する建築当時とほぼ同じ用途の現役RC建築群 ⑤：新日本製鐵所大谷会館

新日本製鐵八幡製鐵所大谷会館は、官営八幡製鐵所の厚生施設として昭和2年に完成して以来、現在も結婚式場や宴会場として営業しています。正面のジャイアント・オーダーと立派な車寄せが印象的です。北九州市のホームページによれば、外壁には自社製品の鉱業鉱滓レンガが使用されているそうです。また、同会館ホームページでは「ノスタルジック・ウェディング」と銘打っています。確かに昭和初期のアール・デコ建築で結婚式をあげるのはいい感じですね。



写真上：新日本製鐵八幡製鐵所大谷会館

構造：RC

竣工：1927年

所在地：北九州市市八幡東区大谷 1-1-1

解体の危機をとりあえず乗り越えた建築物：旧三井物産門司支店（旧JR九州第一庁舎）

「北九州は近代建築物の宝庫だ」と述べましたが、ここでもご多分に漏れず多くの建築物が解体の危機にあります。旧三井物産門司支店（旧JR九州第一庁舎）もそのひとつで、解体され駐車場になる計画があつたそうです。門司港駅の隣、門司レトロ地区ハイライトの一つである門司三井俱楽部の目の前という好立地にありますから、いろいろなニーズがあつても

不思議ではないです。現在は、北九州市が1階に「関門海峡らいぶ館」を開設しており、とれど存続しています。ただし、上の階は空き家のように、外壁は1階だけ塗装工事を行っており、大変目立つ場所なので興ざめです。どうゆう事情があるのでしょうか。



**写真上：旧三井物産門司支店
(旧JR九州第一庁舎)**

構造: RC

竣工: 1937年

設計: 松田軍平

所在地: 北九州市市門司区西海岸1-6
-2

歴史的建造物の再生例

①：旧門司郵便局電話課 (NTT門司営業所)

レトロ地区の観光客は、年々増加しています。そこを訪れる人の多くが「わー、テーマパークみたい」と感激するようですが、ここは張りぼての建築物ではなく、歴史を持った本物の建築物です。朽ちかけた建築物、さびしい地域を大きな意思を持って人々の知恵と努力で再生したものです。

旧門司郵便局電話課(NTT門司営業所)も門司レトロ地区の趣旨に賛同して、「門司電気通信館」という博物館に再生されました。平面的にはL字型ですが、基礎からまっすぐ伸びるマリオンとアールが強調された立面は、実に美しい表現主義的デザインです。旧三井物産門司支店のシンプルでアメリカ合理主義的雰囲気と対比してみると面白いですね。



**写真上：旧門司郵便局電話
課(NTT門司営業所)**

構造: RC

竣工: 1933年

設計: 山田守

所在地: 北九州市市戸畠区新池
1-1



歴史的建造物の再生例②：旧戸畠市役所(戸畠図書館)

再生ということでは、旧戸畠区市役所(戸畠図書館)は外せません。昭和初期に多い帝冠洋式であり、スクラッチ・タイルと窓まわりの白いモルタルの洗い出しは、当時の戸畠の自身を感じます。この建物で注目したいのは、外観をオリジナルのままに耐震補強し、空き家になっていたものを図書館にしたことです。この再生建築を行った青木茂さんのホームページによれば、「…伊藤豊雄さんが設計した仙台メディアパークを見たときに浮かんだアイディアであるが、鉄骨による円筒状を内

部に設け、そのことにより地震時の水平応力はこの筒状のものに全て負担させている。」とあります。内部もスケルトン状態にしてから、なるべく建築当時のオリジナルを尊重してリノベーションしており、見事に未来に繋げる建築物に生まれ変わりました。

ところで、青木さんからのメルマガで、この改修工事が「福岡県美しいまちづくり建築優秀賞」を受賞したとのお知らせがありました。おめでとうございます。

もう一つの大学建築：久留米大学本館

久留米大学は、ブリジ斯顿の創業者である石橋家による敷地や校舎の寄付を受け1928年に「九州医学専門学校」として設立されました。それにしても、アーチと直線を組み合わせた美しい本館の姿は、玄関前に銅像としていつまでも見つめている石橋正二郎氏にとっても、大学そのものと同様に自慢のできるものなのではないでしょうか。



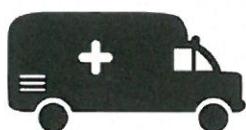
写真上：久留米大学本館

構造： RC

竣工：1929年

設計：松田昌平

所在地：久留米市旭町67



主要参考文献の追加(順不同)

- ◇『福岡の近代化遺産』九州産業考古学会編／弦書房
- ◇『建築MAP北九州』TOTO出版
- ◇『北九州・筑豊の近代化遺産100選』筑豊近代遺産研究会・北九州地域史研究会編／弦書房
- ◇『ニッポン近代化遺産の旅』清水慶一(文)・増田影久(写真)／朝日新聞社
- ◇『日本の産業遺産図鑑』二村悟(文)小野吉彦(写真)／平凡社